

#### <第4275回>

目的地：高野山女人道

担当者：熊谷

実施日：2022年8月7日(日)

形式：ハイキング

費用：¥3,080.- (「高野山・世界遺産きっぷ」使用)

参加者：11名

天気：曇りのち雨

行程：

高野山駅前 BS(9:22)⇒(9:31)高野警察前 BS(9:32)→(9:34)高野町役場(9:44)→鉢伏山→(10:22)不動坂口女人道(10:32)→(11:10)弁天岳(11:30)→(11:50)大門(12:05)→(12:10)助け地蔵尊[昼食](12:44)→(13:58)ろくろ峠(14:08)→(14:18)千手院橋 BS(14:20)⇒(14:30)奥の院前 BS(14:40)→(15:06)御廟(見学)[解散]

感想：

難波駅から電車とケーブルカー、バスを乗り継ぎ高野警察前バス停へ。難波駅ですでに暑かったのですが、バス停到着時点で標高が800m以上あり、涼しく感じられました。少し先の高野町役場の駐車場で本日の行程について説明。気象庁の予報では降水確率20~30%でしたが、別のサイトで昼から雨との予報がある旨を話しました。ここから少し進むといよいよ女人道です。まずは鉢伏山に登りましたが、特に山頂のプレート等はなし。山を越え不動坂口女人堂へ。ここは高野七口に現存する唯一の女人堂です。とても雰囲気のあるお堂です。参拝後女人道バス停の脇から、本日の最高地点の弁天岳(984m)に向かいます。女人道は分岐付近に親切に道標がたくさん設置されていました。弁天岳には祠があり、本日最後のピークということと午後から雨が降りそうだったので、少し早いですが記念撮影を済ませました。はじめは気温が比較的低温で快適に歩けると思っていたのですが、徐々に蒸し暑くなってきて、コースタイムよりかなり遅く大門に到着しました。大門は、高野山の総門でとても立派です。この金剛力士像は国内で2番目に大きいそうです。そして少し先の助け地蔵尊で昼食をとりました。ここからまた山道に入りますが、さらに湿度が増し、歩行ペースがますます遅くなってきました。そしてついに雨が降ってきてしまいました。ろくろ峠到着時点で14時頃となっていたので、ここから先の山道を進むと後半のハイライト御廟の拝観ができなくなりそうだったので、一旦ろくろ峠から街中に下山しました。ろくろ峠は高野山と熊野本宮を結ぶ熊野古道小辺路のルート上にあり、結果的に小辺路の出発区間(高野山ーろくろ峠)を歩いたことになりました。また機会を作って熊野古道小辺路にも挑戦したいと思いました。さて、ろくろ峠から金剛三昧院の入口を通り、高野山の街中に降りると、本日の最終目的地の千手院橋バス停が見えてきました。バス停に到着するとすぐにバスが来たので、バスで奥の院前バス停まで移動。当初の山道経由だとバス停到着が16時頃になりそうだったので、1時間半位時間短縮でき、ここから諸大名の墓など圧巻の墓石群をゆっくり確認し、樹齢千年の杉木立群の雰囲気を感じながら弘法大師入定の御廟を目指し、最後に聖域である燈籠堂・御廟を参拝し弘法大師空海の気配も感じつつ、ここで解散となりました。奥の院前バス停に戻りバスで高野山バス停に向かうグループと当初の予定ルートの墓石群を通り、高野山のメインストリートで和菓子屋等散策を楽しむグループに分かれ帰阪しました。結局予定歩行ルートのかなりの部分をカットすることとなりましたが、なんとか、女人道、御廟等奥の院一帯の雰囲気を満喫することができ、高野山に初めて来られた方にはさらに先の墓石群や高野山のメインストリートについても楽しんで頂けよかったです。女人道のコースについては、高野山の街中のすぐ近くにあるにもかかわらず、結構山深い雰囲気も味わえ、そもそも深山の中に高野山が開山し、山上都市として切り開かれたのだなと改めて感じました。そして、平安期の開山前の完全に山だったであろう状態、開山後明治5年の女人禁制が解かれる前までの状態、昭和5年のケーブルカーが開通する前後の状態、そして世界遺産に登録され外国人旅行者も多く訪れる現在にいたる状態、と各時代の高野山に思いをはせることができました。また、女人道の高野七口に続く、高野山と各地をつなぐ道(熊野古道小辺路や町石道、その他高野山に通ずる各街道など)についてもまた続きを歩いてみたいと思いました。皆様お疲れ様でした。

特記：

途中、女人堂、大門、奥の院前バス停付近にトイレがあります。